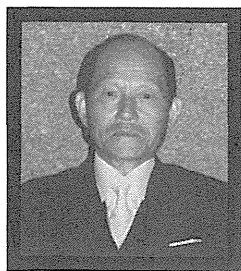


老川寿太郎先生の思い出

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-06-18 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 桜井, 貞彦 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00025304



老川寿太郎先生の思い出

桜井貞彦*

本会創立以来長期に亘り副会長を歴任された老川寿太郎先生は本年3月6日、享年84歳で天寿を全うされました。先生の後任として副会長を務められた桜井貞彦会員から、先生をしのぶ一文を頂きましたので、ここに掲載しご冥福を祈ります（編集委員会）。

静岡県地学会が発足して数カ月後、「静大の佐々倉先生などを中心に静岡県地学会という会ができたんだが、あんたも入会しないかね。」と先生に誘われ、発足間もない地学会に私も入会させて頂きました。それからは地学会主催の研究発表会や巡検会に参加し、たくさんの勉強をさせて頂きました。そのうえ、日曜・休日などを利用して、先生に教えて頂きながら、天竜市周辺の山野を歩き回りました。5万分の1地質図「秋葉山」を頼りに、二俣層群（新第三系）の基底礫岩の露頭探して、天竜市光明付近の山中を終日歩き回ったりもしました。

静大の加藤芳朗先生（本会名誉会長）にもご一緒願って、天竜市只来の山中で四万十帯（光明層群）中の大転石（ノジュール）から、アンモナイトや巻貝を採集したこともありました。先生と大石哲弥さんと私の3人で秋葉山周辺を調査した時には、急に速度を早めた豆台風の風雨に見舞われ、ずぶ濡れになって秋葉ダム下流の西川に下山したこともありました。こうした時、私より20歳近く年上の先生が、若い私たちよりも達者にどンドン歩かれるのには驚かされました。

先生はもともと植物学がご専門でしたから、植物についても実に造詣の深い方でした。ご一緒に山歩きをした時には地質や岩石のことばかりでなく、その辺の植物についても多くのことを教えて頂きました。植物のことなどほとんど知らない私の質問にもいやな顔ひとつせず、その名前や特徴、生態まで詳しく教えてくださいました。

先生のお宅は戦国時代以前からの旧家で、江戸時代には船明村の庄屋をされていましたから、天竜川の水運に関する文書をはじめ膨大な古文書が保存されています。晩年の先生はこれらの古文書を整理され、天竜市の歴史についての研究を進め、天竜市史の編纂にも関わられました。いつでも、だれにも、にこやかな温顔と独特の語り口で接して下さった先生は、百歳までもお元気でご活躍くださるものと思っておりましたのに、突然のご逝去を知り驚きを禁じ得ません。

常に探求の手を休めることのなかった先生のことですから、神に召されて昇られた天国でもきっと何ごとかを探求されていることと思います。先生のご冥福をお祈りして筆をおきます。

老川寿太郎先生の略歴と功績

明治43年2月11日、磐田郡光明村船明（現在の天竜市船明）で出生。地元小学校を卒業後、愛知県立岡崎中学校（旧制）に学び、教員検定試験に合格。磐田郡水窪町で昭和17年より教職に就く。

新学制試行後は、二俣中学校・竜川中学校（現天竜市）、豊岡中学校（磐田郡豊岡村）などで理科教育を中心に活躍され、磐田地区の理科教育の中心的存在として教育界に貢献された。

本会結成後は副会長として地学および地学教育の普及・発展に貢献されたほか、退職後は地元自治会長・天竜市自治会連合会長・天竜市議会議員として地方自治にも献身的に貢献された。

*天竜市二俣町二俣 118